



令和3年1月5日(火)

段原みみょう保育園

1月園だより

あけましておめでとうございます。昨年は、思いもよらぬコロナの広がりに翻弄され、世界中が苦しく、耐える年となりましたが、今年は明るい年となって欲しいと心から願うばかりです。

先月は、4・5歳児の生活発表会を直前になって延期することになり、お知らせした翌日には「夜、ずっと泣いていました。」「やりたかったって何度も言っていました。」というお話を年長組の保護者の方からお聞きし、胸が痛くなりました。表現することが楽しい、練習することが好きでたまらない、誰かに見てもらうことが嬉しいと毎日はりきっていたので、突然の延期が本当にかわいそうでたまりませんでした。この発表会モードは、どうなっていくのか、年長組は就学前の大切な時でもあるのに、開催予定の2月13日までをどう過ごしていくのだろうと心配になり、クラスをのぞいてみると…いつまでも立ち止まっているのではなく気持ちを切り替え、新しい発見、あそびに夢中になる姿が見られました。さすが！就学前の子どもたち！知的に深く考えながら進めていくゲームに子どもたちが集まり、勝敗に一喜一憂しながら、作戦をじっくり考え、それを友だちと共有し、繰り返し遊ぶ姿に大きな成長を感じました。いつまでも残念がっていたのは私だけで、子どもたちはとっくに前を向いて進んでいました。改めて、楽しいこと、わくわくすることにまっすぐ気持ちが向かい、いつも前向きな子どもたちに心を打たれました。

わがままをどう受け止める？

さて、これまで「保育園では子どもたちの主体性を大切にし、一人ひとりの思いに寄り添える保育をしています。」と何度かお話をしてきましたが、ご家庭では、お子さんの気持ちに寄り添いながら、楽しい子育てができていらっしゃるでしょうか。思い通りにならないと癇癪を起したり、すねたりなど「わがまま」ともいえる困った行動に、どう対応したらよいのか悩まれることはないでしょうか。しかし、それは見方を変えると、自分の思いを主張、表現している姿でもあります。お母さんに「もっと甘えたい、私を見て!」というサインでもあるかもしれません。こんな時、いきなり叱っているのは、「自分を大切に思う、自分自身を好きだと感じる」自尊感情＝自己肯定感が育っていきません。「思いをしっかり伝えることができている、主張しているんだな。」とまずは認めてあげましょう。同時に「さっきはどうしてあんなに泣いたの?」「わかったよ。でもね…」というように、なぜそんなに要求するのか話を聞いたり、無理なことに対しては、理由を伝えてあげましょう。この経験を重ねていくことで、なんでも許されるわけではない、やっていいことと悪いことがあると理解し、我慢をしたり、自分の気持ちをコントロールする力も身につけていきます。ぜひ、明日から「子どものわがまま」をちょっぴり温かい目で見てあげてはいかがでしょうか。

コロナウイルスに感染したという情報を身近に聞くようになり、不安な毎日が続きます。子どもたちも多少のストレスを感じているとは思いますが、笑顔は変わらず最高に素敵です。この笑顔を守り、「保育園は楽しい!」とこれまで以上に感じてくれるよう、年長組の前向きな姿勢を見習い、あそびを充実させていきます。子どもはあそびの中でたくさんのことを学んでいきます。その学びについても保護者の方にどんどんお伝えしていこうと思います。これまでたくさんのコロナ関連の願いをしてみました。引き続きご協力いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。